第３号様式（第７条関係）

令和５年 11 月 17 日

開成町議会議長　　山本　研一　様

開成町議会議員　佐々木　昇
（代表）

派　遣　成　果　報　告　書

派遣の区分	□委員会派遣　（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿委員会） ■議員（複数） □議員（単独）
目的（調査事項又は研修項目）	令和５年度議員県外行政視察 ① 紫波町議会（岩手県紫波町） 議会改革について （議会モニター制度、議会報告会の取組みについて） ② オガールプロジェクト（岩手県紫波町）
目的地	① 岩手県紫波町 住所：岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前二丁目３番地１ ② オガールエリア 住所：岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前二丁目３番地 12
期日（期間）	令和５年 10 月 17 日（～令和５年 10 月 18 日）
視察又は研修の成果	別紙のとおり

神奈川県開成町議会視察研修会出席者名簿

役　職	議員名	所属政党	備考
議　　長	山本　研一	無所属	
副　議　長	前田　せつよ	公明党	
議　　員	清水　友紀	無所属	
議　　員	吉田　敏郎	無所属	
議　　員	石田　史行	無所属	
議　　員	井上　慎司	無所属	
議　　員	武井　正広	無所属	
議　　員	星野　洋一	無所属	
議　　員	今西　景子	無所属	
議　　員	寺野　圭一郎	無所属	
議　　員	佐々木　昇	無所属	代表
議　　員	山下　純夫	無所属	

随　行

議会事務局長	遠藤　直紀

県外視察成果報告書

代表幹事　佐々木　昇

今回の県外行政視察は岩手県紫波町の「議会改革について（議会モニター制度、議会報告会の取組みについて）」と「オガールプロジェクトについて」を視察、研修項目として行った。

紫波町は岩手県のほぼ中央に位置しており、人口 32，937 人（令和５年９月末現在）、面積 238.98 ㎢で昭和 30 年に１町 8 ヵ村が合併して誕生した町である。

＜議会改革について（議会モニター制度、議会報告会の取組みについて）＞

紫波町議会は平成 19 年に「議会のあり方に関する検討委員会」を設置し本格的に議会改革に取り組み始めた。当時 22 人だった議員定数は平成 23、27 年に各 2 名の削減を行い、現在 18 名である。

本議会も同じように議会改革に取り組んできたが、今回は主に本議会が行っていない、「議会モニター制度」と今後更に充実した議会報告会を目指すため、「議会報告会」について視察を行った。

視察では各議員から活発な質問が行われ、今後の議会活性化につながる実のある視察となった。

＜オガールプロジェクトについて＞

この取組みは、公民連携の手法を全国に先駆け導入され行われた取り組みである。JR 紫波中央駅前の町有地 10.7 haを中心とした都市整備を図るため、町民や民間企業の意見を基に、平成 21 年 2 月に紫波町公民連携基本計画を策定、同 3 月に議決された。この計画に基づき、紫波中央駅前都市整備事業（オガールプロジェクト）が開始した。

現在、「開成町駅前通り線周辺地区土地区画整理事業」に取り組んでいる本町にとって、非常に興味深い取り組みとして研修を行った。

研修はとてもわかりやすくプロジェクトについての理解が深まった。また、本町が進めていく事業にとっても非常に参考になる意義のある研修となった。

派遣成果報告

紫波町議会　令和5年 10 月17日（火）

「議会改革について（議会モニター制度、議会報告会の取組みについて）」

・議会モニター制度

議会モニターについては、選出に難しい面があるとお話しをいただいた。公募ではあるが、なかなか応募が無い状況。地域各団体等にも協力をお願いし、選出している。定数に充足したことは現在まで無い。原則無償（交通費の支給有り）無償でないと適格なことが言えない。モニターだった方が議員になったことはプラス。年齢層は偏りなく各世代より若干名ずつ。

・議会報告会

報告内容としては、各常任委員会の報告後、意見交換や質疑等の流れは開成町議会とほぼ同様であるが、各回班編成（4班）を行い開催している。意見交換の質疑は後日回答が多い。回覧で周知をおこなっているが、若い方の参加は少ない。

議会報告会の際（1会場1開催のみ）、託児サービスを行っている（無償）

開成町議会でも議会開催時託児サービスをおこなっているのでできなくはないが、開催場所や時間は考慮する必要がある。

・常任委員会の名称

いきいき町づくり常任委員会（開成町議会＝総務経済常任委員会）

すこやか町づくり常任委員会（開成町議会＝教育民生常任委員会）

常任委員会の名称について特徴的ではあるが、わかりやすく親しみやすい名称である。開成町議会でも開かれた議会の数ある中の一つとして、今後検討する余地あり。

・議会全体（議長）

当日対応していただきました先方議長は10期目（議長5期目）ではあるが、現状に満足することなく、常に町を良くすることを考え活動されている。

新人議員は広報広聴の委員になると、より全体の流れがわかるので是非やった方が良い。

初心は元より議員の本来あるべき姿のようなものを感じ取れ、新人の私には視察内容以外でも学ぶことが多い実りのある視察になりました。

開成町議会議員　寺野　圭一郎

派遣成果報告

オガールプロジェクト　令和5年 10 月18 日（水）

【概要】

日　時：令和５年10月18日

場　所：オガールプロジェクト（岩手県紫波郡紫波町）

目　的：「循環型の町づくり」を PPP による公民連携で実施し、先行かつ成功事例とされるオガールプロジェクトを視察し、自身の議員活動に反映させ本町の町づくりに貢献する。

【内容】 オガールプロジェクト　オガール標準コース 135 分

（1）プレゼンテーション　90分　オガールプロジェクトの概要と経緯、施設の概要等

（2）質疑応答　　20分

（3）エリア内視察　　25分

【所感】

紫波中央駅開業のための請願を満たす要件は駅建設費捻出の他に 30 万人/年の利用客の創出があった。その利用者創出ために住民要望№1の図書館で 17～18 万人、役場を置くことで7～8 万人、残りの５万人程度フットボールセンターの誘致で賄うとデータをもとにリアルな数値を積み上げた点が堅実でもあり評価できる。

また、オガールエリアは年間 100 万人が訪れるということで相当な賑わいを期待したが、交流人口 100 万人は平均 2,400 人/日であり、開成駅の乗降客数も年間に直せば 300 万人以上になることを考えるとそれは過大な期待であった。しかし、その数字が次々と行政視察を呼び込み、収益も挙げていることを考えると、情報発信の仕方として、またマーケティングとして上手いと思った。

オガールが導入した公民連携の手法 PPP を駅前通り線周辺地区土地区画整理事業に採用するか否かにかかわらず、民間活力の導入は避けて通れない。その民間のスピードに並走するかたちで議会としてのチェック機能を果たしていくために何をすべきか、現段階から検討しておくことが求められる。この気づきが今回の視察でも最大の成果だと思う。

開成町議会議員　山下　純夫

令和５年度議員県外行政視察 派遣成果報告書(別紙)

【紫波町議会 ・ オガールプロジェクト】

清水　友紀　議員
所感等 〇オガールプロジェクト 　年間 100 万人以上の交流人口を呼び込み、不動産価値を 20％以上も底上げした成功例として全国から視察が絶えない 10.7 ヘクタールの地域再生事業プロジェクト。約 10 年間巨大な雪捨て場だった更地を、町の命運をかけての再生…という舞台がストーリー性に富んでおり、各方面で秀でた専門家をプロジェクト参画に向かわせる魅力になったのではないか。 　オガールエリア訪問後に残る解放感と好印象は、プロジェクト基本計画の序論（つまり計画段階）で「ある一日」として描き出されている情景そのものだ。具体的な理想像があり、それに向かう実現可能な計画が入念に練られたことが伺える。 　計画遂行のためにハコモノではなくエリア一帯をデザインする組織を作り、重要な権限を持たせていたことに特に注目した。描かれる一帯のデザインはぶれない理想像を視覚化するもので、漠然とした夢の図でもディベロッパー任せの図でもない。 　目的とする事業や活動（図書館事業から芝地でくつろぐことまで）、またその目標数字（町の身の丈にあった年間来客数など）から逆算して床面積や配色などが算出されている。テナントは先付けして投資の回収が確実視されており、持続可能なまちづくりとなっている。 　また、これらの動きを流れに乗せた原動力として「〇〇区画整理事業」ではなく粋なプロジェクト名を作り、町長が職員と住民に向けこれから皆を巻き込んでいくぞという旗振りを行ったことも、難儀な事業を町民一丸となって遂行する覚悟の表れとして意義深いと思う。

吉田　敏郎　議員
所感等 〇紫波町議会 　紫波町議会は、平成26年度から議会基本条例に基づき、議会モニター制度を導入、年に１回または２回、議会モニターとの意見交換会を開催。 　ご意見、要求をどこまで反映させるかの線引きは難しいが、忌憚のない貴重なご意見は議会の運営やモニター制度の在り方を考え直すきっかけになり、ありがたいとのこと。 　当議会としても、モニター制度導入は検討中であり、大変参考になった。他の議会改革、議会報告会においては、当議会の方が先んじているのかなと感じた。また、常任委員会の名称が「いきいき町づくり常任委員会」、「すこやか町づくり常任委員会」とあることには注目した。 〇オガールプロジェクト 　整備方針は、統一感のある景観で住みよい町に、官と民の敷地がシームレスにつながる、歩行環境の充実、回遊性、快適性を重視した道路網、多様な用途に活用できる公共空間、公共投資を誘発剤として民間投資を促進等、町全体に経済活動が波及する仕組みを作り、持続的に発展する町を目指すという。 　当町では、駅前通り線周辺地区土地区画整理事業の中で、官民連携の「図書館を含む複合施設」を検討している。 　今回の視察研修で得た知識をもとに議員活動として調査研究をし、厳しい目を持って注視していきたい。

石田　史行　議員
所感等 〇オガールプロジェクト 　JR東北本線の「紫波中央駅」前に広がる10.7ヘクタールの岩手県紫波町の町有地について、公民連携手法を取り入れた紫波中央駅前都市整備事業（通称：オガールプロジェクト）を視察した。 　この土地は、平成9年に官主導での駅前開発（公共施設の建設と住宅地の開発）を行うため、28.5 億円をかけて町が買収したが、その後計画が財政難等を理由に頓挫し、10年にわたり塩漬けになっていたが、再生に成功したプロジェクトである。 　具体的には、官主導での駅前開発を主導した当時の町長の退任後に就任した藤原前町長が、町有地を「公民連携」手法により再生しようと考え、東洋大学と包括協定を締結し、「公民連携基本計画」を策定。この基本計画に基づきプロジェクトが平成21年にスタートしている。 　再生された町有地（通称：オガールエリア）の中心となっている建物は、平成24年6月に竣工した「オガールプラザ」という官民複合施設である。木造一部鉄筋コンクリート造2階建て、延べ床面積5,826 ㎡、総事業10億9,500万円で建設。この施設の中には、図書館などの公共施設2,693㎡が含まれ、町は公共施設部分を買い取り、居酒屋や医療クリニック等民間部分からの家賃収入と固定資産税を得て、そのお金で公共施設部分を運営している。この方法は、公共施設の維持に係る税の負担を減らしていく新たな手法として非常に参考になった。

井上　慎司議員
所感等 〇紫波町議会 　紫波町議会の議会モニター制度は町内各種団体より推薦を受けた方など 30～70 代のメンバーで構成され、議会との意見交換会の場を年に数回設けている。この取組みにより議会全体を客観的に分析でき、より開かれた議会運営が期待できるので本町でも取り入れていきたいと感じたが、メンバーの偏りや固定化が起きないような仕組み作りなど課題も見えた。 〇オガールプロジェクト 　オガールプロジェクトでは官民連携（PPP）の手法について学んだが、仕組みや手法よりも首長のリーダーシップとキーマンの手腕によるところが大きいと感じた。また第三セクターがパブリックマインドを持った民間会社として官と民を繋ぐ橋渡し役を担っており、官民のバランスがとれていることもポイントと感じた。オガールプロジェクトは駅前開発の成功事例ではあるが、町内にある商店街エリアの再生は思うように進んでいないとのことであった。これは開成町にも通ずることであり、駅前通り線とその周辺の土地区画整理事業だけではなく全町的な活性化に向けた理念や目的を明確にして取り組むことの重要性を改めて認識した。 　オガールプロジェクトで注目された紫波町は議会も大変活発であり、オガールエリアを起点としたまちづくりもまだまだ道半ば。紫波町の今後にも注目を続けると共に、今回の視察で得たものをしっかりと開成町のまちづくりに活かしていきたい。

武井　正広　議員
所感等 〇紫波町議会 　初日の紫波町議会の議会モニター制度は、広聴活動を強めたく行っているとのことだが、最近は人数が集まらず PTA や婦人会などから推薦してもらっている状況とのこと。無報酬で交通費程度は支給しているが、無報酬だからこそ言いたいことを言えるとの説明もあり。議会報告会では議会だよりを持参してもらい議会だよりの評価も行っている。議会モニター制度は、本町議会でも検討中であり今後に向けて、とても参考になった。 〇オガールプロジェクト 　2日目のオガールプロジェクトは、3年連続行政視察数が全国１位と注目されている。駅前周辺を図書館を核として公民連携（民間主導）により逆アプローチの不動産開発を行い、あらかじめの家賃設定、テナント誘致により入居率　100％を確保。リゾートでもなくテーマパークでもない暮らしのまちを創り上げた。キーマンが存在してのことではあるが、行政サイドが民間へ任せきれるか。ここが一番大切との説明もあった。 　本町でも駅前通り線周辺地区土地区画整理事業では、町有地に図書館を核とした複合施設を設置する構想もあるが、公民連携の考え方、最小の経費で最大の効果を出せるような駅前通り線周辺になるよう望まれる。とても有意義な視察であった。

星野　洋一　議員
所感等 〇紫波町議会 　岩手県紫波町は 1955 年(昭和 30 年)に 1 町 8 カ村が合併し誕生した。 　総人口は 32,937 人(令和 5 年 9 月末)面積 238.98 ㎢である。 　紫波町議会は議員定数 18 名。「いきいき町づくり常任委員会」「すこやか町づくり常任委員会」「予算決算常任委員会」」「広報広聴常任委員会」の親しみやすい名前の 4 常任委員会がある。 　研修を行った紫波議会のモニター制度は平成 26 年 6 月に導入された。モニターの年齢は 18 歳以上で定数は 10 人である。職務は本会議、常任委員会等を傍聴し意見の文書による提出である。 　モニターから提出された意見は、必要に応じ関係する会議に意見書を送付し、会議で検討する。検討した結果は、モニターに通知するとともに公表する。議会モニターの人数の推移は施行以降 5～8 名で推移していた。 　開成町議会は近年、議会広報改革等が行われてきた。新聞やニュース等で高評価を得ているが、町民からの評価はまだまだ集められていない。直接町民の皆様に意見を伺い、議会だよりの中で掲載したがまだまだ少数意見である。常時意見を求められる議会モニターの制度はとても必要と考えている。紫波町議会の視察をはじめ、他議会の議会モニターの調査を進め、これからより良い議会モニター制度を導入していきたい。

今西　景子　議員
所管等 〇紫波町議会 　紫波町では議会報告会でも託児を実施。私は託児の提供は、例え利用がなくても、子育て中の方に参加してほしい、意見を求めている、というプラスのメッセージになるので大切だと思っている。 〇オガールプロジェクト 　一般質問で取り組んできた、私の理想とする子どもの居場所があった。 　理想の子どもの居場所は、いつでも、だれとでも、気軽に、そして人の目があり、屋内、屋外問わず、が要点であると考えている。オガールには、ジム、飲食店などの大人の居場所もあるため、大人の目が届き、両者互いに安心である。しかもルールが寛大。ごみを捨てない以外には禁止事項がない。それが居心地の良さに繋がっている。 　こちらも一般質問で取り組んだ、防音の音楽練習室（オガールで人気 No1）、アトリエ、自習室も見ることができた。 　官民連携が肝。 　町民と行政が合意し、目標を共にし、熱い思いで、難関をアイディアと弛まぬ努力で乗り越え、先行事例が無いことも挑戦し、困難を乗り越えた結果、それが強みになったと理解した。慣例を良い意味で破る勇気にも、感涙であった。

前田　せつよ　議員
所管等 〇オガールプロジェクト 　公民連携の事業展開を成功させたオガールエリアは、平成10年 3 月紫波中央駅を開業し、その駅前に広がる10.7ha の町有地を開発したもので、多くの自治体等から視察が絶えない、正に紫波町の財産でした。 　その駅を降り立つと、多くの人が集うことを目的とした一大プロジェクトを敢行したとは思えない静まり返った日常がありました。駅前の真っ直ぐに延びた道を歩いて行くと白とこげ茶の2色に統一された町並みがあり、図書館、コンビニ、食事処、医療施設、等々があり、その一つひとつに洗練された設備投資が図られ、質の高さに何度でも訪れたいと思う所です。特徴的な個々のエリアは、町民も含めた多方面に渡るニーズにも応える充実したものでした。町民はもとより町外からの利用者も大変に多いだろうと確信できました。 　不動産開発は、逆アプローチで取り組んでいました。例えば、着工時入居率 100％をもって設計及び工事を行い、そのまま竣工に至っていました。 　オガールエリアの目的の第一は「町民の財産である町有地を安売りしない」と掲げ、有言実行されていました。この有意義な視察を本町のまちづくりの参考に、しっかりと咀嚼し活かしていきたいと思います。